

# 平成16年度第2回図書館協議会会議録

日 時 平成16年6月23日(水)

場 所 鎌ヶ谷市立図書館3階保育室

出席者 石井 恵美子(委員長)  
倉田 智子(委員)  
須賀 法子(委員)  
菊地 芙美子(委員)  
秋山 弘子(委員)  
山田 美保子(委員)  
事務局 齊藤 幸四郎(鎌ヶ谷市立図書館長)  
富永 康彦(奉仕係 副主幹)  
風野 憲行(庶務係 主査補)

**委員長** (挨拶) 利用者の立場で、気負わずに鎌ヶ谷の図書館環境の向上をめざして答申にいたいと思う。よろしくお願いします。

**教育長** (挨拶) この街の図書館はどうして行くのか。運営のあり方について大きな地点に立っている。何をやるにつけても、街のふところ事情は厳しい。5年間で33億減らさなければならぬ、大変な時期に立っている。子どもの読書活動をどうしていけばいいのか。夜間開館をどうしていけばいいのか。公民館のようなものであればそれでいいのか。図書館は本の貸し借りがあるのでパートだけに頼むわけにはいかない。移動図書館についても、いま使っている車は、使用に耐えないということだ。とりあえず廃止となったのだが、いままで貸し出ししていた人をどうフォローしていけばいいのか、そういう問題もある。

**委員長** それでは、報告事項をお願いします。

**館長** 現委員である佐々木一さんが辞め、新たに大八木健児さんが7月1日から勤めることになる。

**委員長** 任期はあるんですか？

**館長** あるのだが、PTAを辞めたことに伴い、変更となった。

**委員長** では、協議事項をお願いします。

**館長** それでは協議事項の第1点目から説明します。

鎌ヶ谷市図書館運営の在り方について(説明)

**委員長** それでは、まず、移動図書館の廃止について。

これは「サービス低下」と間違いなく言われるだろうから代替案はあるだろうか？いろいろな館長から代替案の提出があったが。

**委員** 移動図書館の廃止に対する代替案で「文庫」の活用ということがあったが、「文庫」がいま市内にあってどのような活動をしているのか、市は把握しているのか？また、「文庫」でも、活動の活発さには差がある。これをどうするか？

祝祭日開館については、なぜいままでやっていなかったのだろうか？と思っていた。毎日開いてほしい。学校図書館の関係は？ インターネットの検索などの進捗はどのくらい進んでいるのか？

**館長** かつて「グリーンハイツ文庫」というものがあり、自治会との調整のなかで運営したことがある。

こういうところをうまく活用できたらどうかと思っている。特に西部地域についてはそう考えている。

**委員** 市全体の「文庫」の把握は？

**館長** 15 団体あるが、実際活動しているのは5団体くらいかと思う。なるべく身近な場所での図書の受け渡しが望ましいと考えているので、それに伴う配本システムをうまく機能させれば充分可能だと思う。ただいつからということになると、具体的にいえないが。

**教育長** 学校図書館のことだが、休みの日などは空いているのだから活用できないかという意見もある。しかし、学校は簡単にそういうわけにはいかない。例えば土曜・日曜に学校図書館を開放するとすると、学校中どこへでも入られてしまう。部分的なところでは、人が図書室以外には入れないように改築したところもある。

しかし、この時代なので、学校を開放したい気持ちもあるのだが、なかなか難しい。

**委員** 移動図書館の廃止に伴って、現存の「文庫」を活用するという方法は基本的には賛成。しかし、いまは子ども向けのものばかり。利用者は大人もいるので、担当する人は大人の本も扱えることが大切ではないか？ 利用者を増やすというのは大事だが、それ以上に、いま利用している人を大切にするということのほうがもっと大切だと思う。利用回数の多い人たち、特に大人の本を読む人は非常に本好きの人に違いない。そういう人たちを見つけ出してボランティアをお願いするのも一つの手だと思う。利用者の拡大よりも、利用者のためになることを重視してもいいのでは？

**委員** テレビでコンビニの活用というニュースを見た。キメ細かいサービスということ念頭におくと、そういう「コンビニを利用したサービス」というのもいいと思う。友人に「文庫」の活動をしていた人がいるが、「お役目ごめん」と打ち切られることもあるので注意されたい。たとえば宅配サービスなどというものも視野に入れてほしい。

**委員** グリーンハイツには空き店舗がある。その活用はできないか？ グリーンハイツは南部公民館も、南児童センターも遠いので…。

**委員** 地域の「文庫」と学校を使うのは基本的には「児童のため」だと思う。大人の本と一緒に扱うのはどうか？ 「文庫」は児童向けで徹底してもよいのではないかと。学校図書

館を大人も使うとなると子供にあまり良い影響を与えないのではないか？ 地域の大人が図書館に出入りするのあまり好ましくない。また、図書館についてだが夜間開館、祝日開館のメリットばかり強調されるが、レファレンスなどの業務も図書館にあるので、パートだけにまかせてしまうのはどうかと思う。

**委員長** 本というのは、中を見て活字を読んで「読んでみよう」を思う本の選び方がベターだと思う。BM車の廃止はやはり反対。民間のBM車ということは考えられないか？

**館長** 図書館業務のノウハウをもっている大手の書店はある。袖ヶ浦はTRC人材がいっぱいあるので、本の知識をもっている人間も多い。民間に委託するのも手かもしれないが、BM車については「廃止」の意向は市の方針として固い。

インターネット検索は来年度からやる。これが「BM代替案」ということになっている。既に、情報をコンピュータに入力している。BMの直営は厳しい。

移動図書館に代わるサービスは、移動図書館しかない。それが無くなるとなると、何が今の時代にふさわしいのかということを考えなくてはならない。民間に頼めば出来ないことも無いと思う。

**委員** BMを廃止すれば1,000万浮くということでやめた感じがする。

**委員** 「文庫」はどこも衰退している。やっている人も高齢化が進んでいる。状況としては「文庫」を活動しているところは鎌ヶ谷市では無いのではないかと思う。

**委員長** では、次の案件、事務局から。

**館長** 施設の活用について説明「男女参画推進センター」設置について  
「子ども読書推進計画」の策定について

**委員長** 3F部分の利用についての確認ですが、いかがでしょうか？

**委員** かつては、「ビデオライブラリー」として使う予定ではなかったか？

**館長** 本来はそういうことも考えなくてはならないが、当時は視聴覚センターが先行していた。今回で視聴覚ライブラリーを大きく扱うことになる、視聴覚センターが図書館業務に合併されることになる。しかし、市の方針では、視聴覚センターは廃止の方向となっている。また、視聴覚ブースを作るとなると、オーディオ機器なども設置しなければならない。さらに経費がかかる。市としてのボランティアの活動拠点として考えている。

**委員** ボランティアの拠点というが、図書館ボランティアに限るのか？

**館長** 基本的にはそうだ。

**委員** 子供にかかわってくるボランティア団体は多いと思うが、活動の拠点が無いのが実情。総合学習や環境学習に係るボランティア団体も含めてもらえたらと思うのだが…。

**委員長** 子どもという概念でとらえれば広い解釈でできる。「男女参画事業」としての利用はどうか？

**委員** 基本的には賛成。しかし、男女問題というのは本に限ったことは無い。だが、図書館運営というのは女性に負っている部分が多いと思う。図書館運営にプラスになるのであればいいのではないか？

**委員** 女性センターの必要性がわからない。

**館長** いまやむしろ、女性の活動の方が活発化している。女性センターは、女性の悩み相談を請け負う拠点として設置しようと考えている。しかし、個人的にはこれは公民館のほうが適切ではないかと思う。3Fの利用については、あくまで、図書館の関係施設としたい。

**委員** 当初の予定で3Fとも図書館として使うのであれば、その方向でやればいいのではないかと。なにも女性センターをここに作る必要はないだろう。

**委員長** 中央公民館の青少年センターはまなびいに移っている。図書館は、純粋な図書館としての施設としたほうがよいと思う。

**委員** 私は「おもちゃの図書館」を担当している。かつては、図書館で活動していたが今は、総合福祉保健センターに移った。しかし、人の集まりは、図書館のほうが圧倒的に良い。

**委員** 郷土資料を自由に閲覧できない。郷土資料館が所蔵している資料は多いのだが、貸し出しをしていないので図書館で取り扱ってもらえないだろうか？

**委員長** 空いているということで、どのように利用すればいいのかということになっているのですね。

**委員** ブックスタートが始まったのだから、ブックスタートのボランティアが研修の場としてここを使えるのでは？

**委員** ここの3Fは稼働率が悪い。鎌ヶ谷市の行政は場当りの。郷土資料館にしても、銀行が潰れたからそこを利用する、といったように非常に安易。「女性センター」にしても名前だけ、「女性」という名前をつけるセンターをつくる意義があるのかと思う。もっとじっくり考えてやって欲しい。ボランティアのキーステーションにするとか、女性センターとか安易ではないか。

**委員** 図書館にとってプラスになるかということが問題だと思う。

**委員** 「女性センター」ということになると、性的なものや刺激的なものもあるかと思う。子どもに目をふれさせたくないものもたくさんあるので、できれば図書館にはそういうものを作ってもらいたくない。

**委員** 複合的なものとして使うのか、純然たる図書館として使うのか。いずれにしても、有効に使うことを考えなければならない。

**委員長** 意見はたくさんでもっと出てくると思うが、しかし時間になってしまった。また開くということでしょうか？

**館長** 施設の運営ということについては、袖ヶ浦への視察のあとでもよいかなと思う。参考になるはずなので。

#### 視察の説明

**委員長** では、視察のときの質問事項なども考えておいてください。では次の日程ということになるがいつがよろしいか？

**館長** 7/23（金）午前9：30～11：30でどうか？

**委員長** それでよろしいですね。それでは、これでありありがとうございました。

以上で、平成16年度第2回図書館協議会を終了。

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するため、次に署名する。

平成16年7月23日

長尾 利男

氏名 (中尾 明)

---

氏名 三門 博子

---



